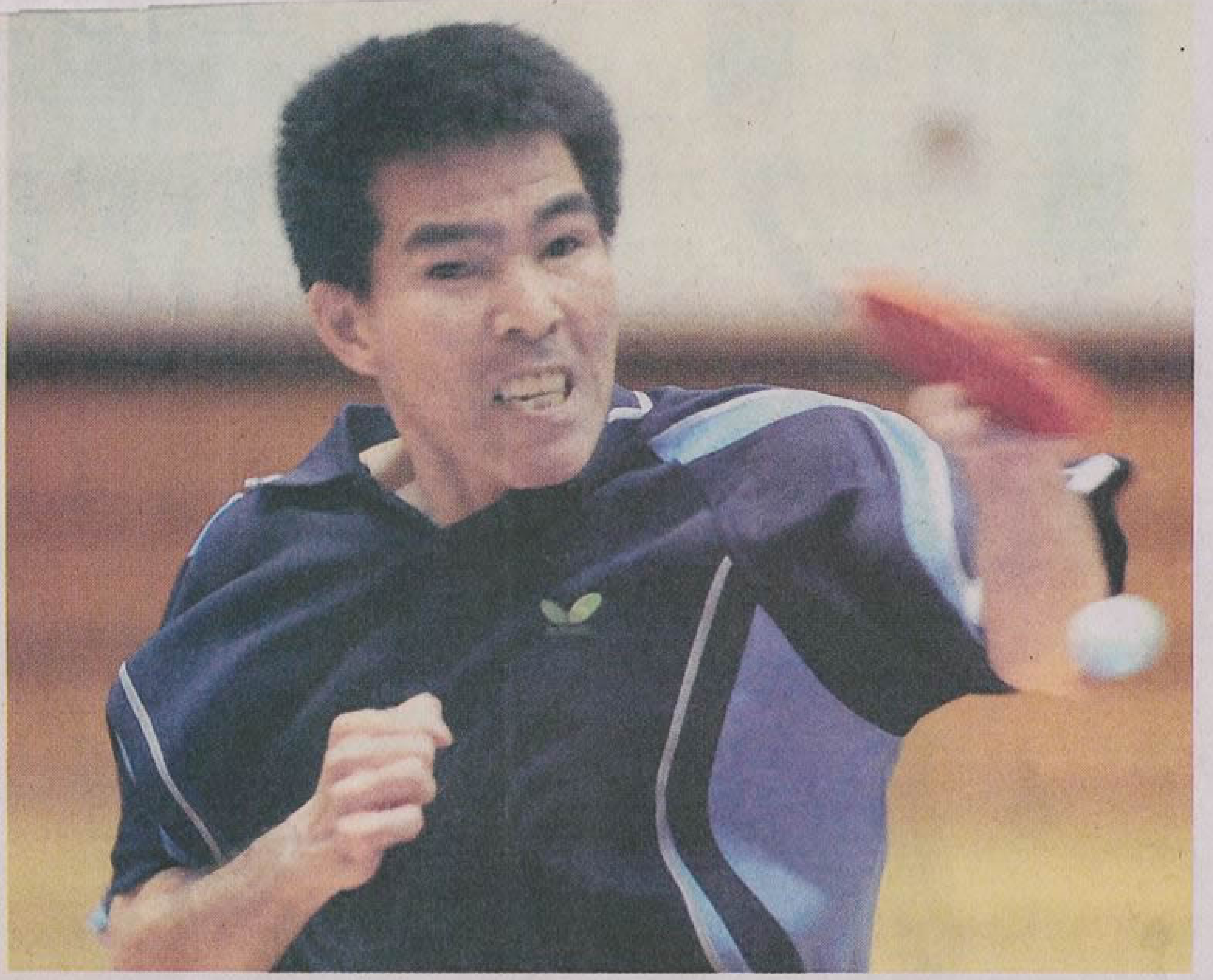
### 第50回タイムス杯卓球

# 10年ぶり17度目頂点

卓球の第50回タイムス杯争奪総合個人選手権大会最終日は24日、那覇市の県立武道館で行われ、男子決勝は花木友明（琉球卓球クラブ）が前々回大会の覇者・柳原弘文（与那原TT）を4—2で破り、10年ぶり17度目の優勝。節目の大会で、自身の持つ優勝記録を更新した。姉妹対決となった女子決勝は狩俣道乃（ドリーム高山）が妹の道世（宜野湾中）を4—3で下し、初の栄冠に輝いた。

花木は決勝で第1ゲームを先取されたが、カットマンの柳原を前後に揺さぶり攻略。随所に強打も決まり、柳原を下した。

女子の狩俣乃は1—3から3ゲームを連取して、逆転勝ちした。



随所で強打を決め、17度目の優勝を飾った花木友明＝県立武道館アリーナ（田嶋正雄撮影）

## 鉄人健在「守りは今が上」

### ヒーロー

鉄人だ。51歳にして10年ぶりの奪還。50回目を迎えた節目の大会で、王者・花木友明（琉球ク）が再び輝いた。

「ベスト8が目標」と控えめだった今大会、抜群の勝負強さで勝ち上がった。準々決勝で若手の難敵、新垣博之（祐斗ク）を、準決勝では花木と県内双へきの外間政克（外間ク）をフルゲームの末、退けた。

「体力がないから8強ぐらいがヤマだと思っていたけど。準決勝から、5ゲームから7ゲームマッチになって雰囲気が出てきた。そしたら楽しくなって」。かつて15連覇の金字塔を打ち立てた王者の試合勘は、一戦ごとに研ぎ澄まされた。

決勝は41歳の柳原弘文（与那原TT）と〝90歳対決〟。全日本レベルと言われたフォア、フットワークは衰えを隠せない。ゲームの間には両足全体に沈痛スプレーを吹きかけまくった。しかし、そこは百戦錬磨。柳原の強打を的確なブロックでいなし、勝負どころで鋭く左腕を振り抜いた。「守りは全盛期より今の方が全然上。きょうの内容は若い人が見ても、濃いと思うよ」

県卓球協会の強化部長という肩書を持つ。8強入りした高校生は1人にとどまった。「そういう意味では残念。沖縄総体もあるし、1日15時間は練習するぐらいの気持ちがほしい」

県卓球界でトップに君臨し続ける先駆者は、身を呈して若手に奮起を促した。（大城大輔）

**【男子】**

▽準々決勝

外間　政克（外間ク）3—1　宮里　卓（祐斗ク）

花木　友明（琉球ク）3—1　新垣　博之（祐斗ク）

末吉　裕貴（琉球大）3—1　佐藤　良明（知念高）

柳原　弘文（与那原TT）3—1　友寄　隆太（琉球大）

▽準決勝

花木　4—3　外間

柳原　4—2　末吉

▽決勝

花木　4
10—12
11—5
11—6
11—5
9—11
12—10
2　柳原

**【女子】**

▽準々決勝

狩俣　道世（宜野湾中）3—0　金城のどか（糸満市役所）

仲宗根菜月（普天間高）3—1　又吉　澪（前原高）

津嘉山優子（沖国大）3—0　盛岡　愛美（知念高）

狩俣　道乃（ドリーム高山）3—1　弓削奈都希（沖国大）

▽準決勝

狩俣世　4—1　仲宗根

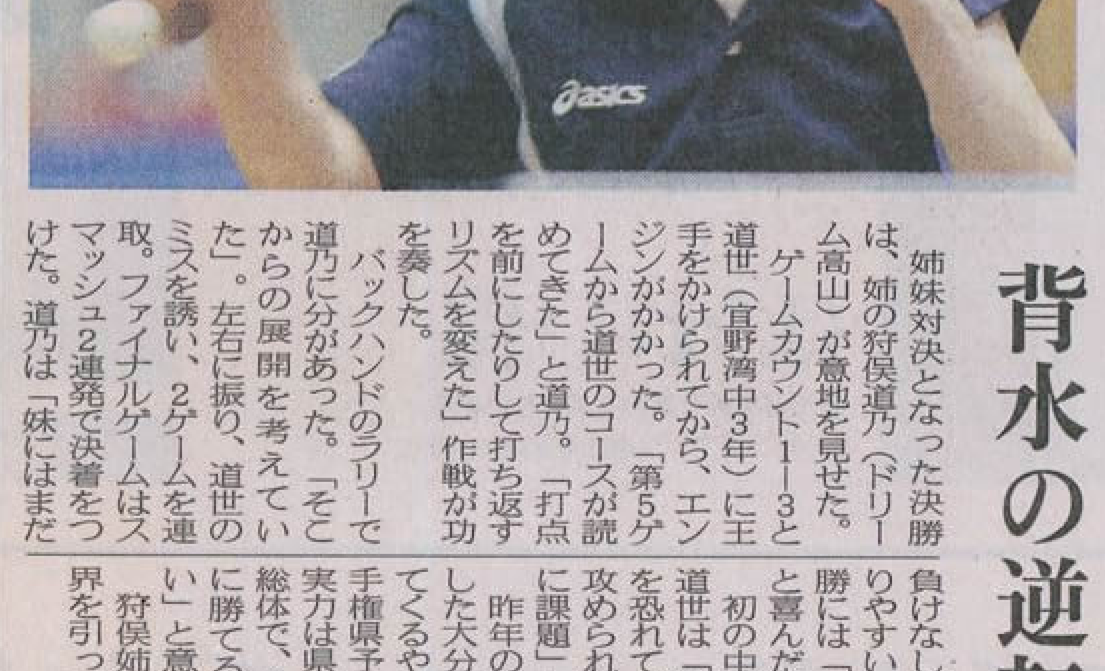
狩俣乃　4—1　津嘉

▽決勝

狩俣乃　4
11—13
8—11
16—14
8—11
11—6
11—7
11—7
3　狩俣

## 狩俣道乃 妹破り初女王

### 背水の逆転劇



姉妹対決を制し、初優勝を果たした狩俣道乃

姉妹対決となった決勝は、姉の狩俣道乃（ドリーム高山）が意地を見せた。

ゲームカウント1—3と道世（宜野湾中3年）に王手をかけられてから、エンジンがかかった。「第5ゲームから道世のコースが読めてきた」と道乃。「打点を前にしたりして打ち返すリズムを変えた」作戦が功を奏した。

バックハンドのラリーで道乃に分があった。「そこからの展開を考えていた」。左右に振り、道世のミスを誘い、2ゲームを連取。ファイナルゲームはスマッシュ2連発で決着をつけた。道乃は「妹にはまだ負けなし。気持ち的に
りやすい」とにこり。初
勝には「素直にうれし
と喜んだ。

初の中学生女王を逃
道世は「戦術がだめ。ミ
を恐れて、攻めるとこ
攻められないのが、い
に課題」と悔しがる。

昨年の夏、「卓球留
した大分の明豊中から
てくるやいなや、全日
手権県予選を制するな
実力は県内トップ。「
総体で、全国の選手を
に勝てるように頑張
い」と意欲的だ。

狩俣姉妹が県の女子
界を引っ張っている。